

ちょうふくしょう かん 重複障がいに関する

プロジェクトチーム



ほうこくしょきさいしゃ こたに
報告書記載者：小谷

うんえいかいぎ たんとういいん こたにいいん
運営会議の担当委員：小谷委員

へいせい ねんど じゅうてんこうもく 平成30年度の重点項目

- ・ プロジェクト発足当初からの活動とその効果及び残された課題をまとめた
「活動実績報告書」を作成する。
- ・ これまでの取り組みの内省、課題の整理を行う。

かつどうがいよう 活動概要

ねんど 29年度	だい かい だい かい かい かい かい かい ・ 第17回から第24回会議開催
かつどうじっせき 活動実績	➤ ざだんかい きかく どうじつ うんえいおよ ふ かえ 座談会の企画、当日の運営及び振り返り ➤ しょう しゃ ていげんないよう けんとう 障がい者プランへの提言内容の検討 ➤ かしょう いりようてき じ し え ん けんとうかい やくわりぶんたん かくにん (仮称) 医療的ケア児支援検討会との役割分担について確認 - どうがい だいひょうせんしゅつ けんとう 当該プロジェクトからの代表者選出について検討 ➤ こんご ほうこうせい けんとう 今後のプロジェクトの方向性を検討 ➤ どうがい ねんかん けいか いけんしよきくせい けんとう 当該プロジェクトの3年間の経過をまとめる意見書作成を検討 ざだんかい かい かい ・ 座談会開催 がつ にち だい かい とよひらく みなみく 7月7日：第2回（豊平区・南区） がつ にち だい かい きたく ひがしく 9月29日：第3回（北区・東区） がつ にち だい かい ちゅうおうく にしく ていねく 11月29日：第4回（中央区・西区・手稲区）

	・8月：札幌市障がい者プランに対して当該プロジェクトから重症心身障害児者に係る支援枠組みの構築の必要性について提言書を提出
30年度 活動予定	・重複障がい児・者に関わる事業所等へ知識・理解促進の働きかけとして開催してきた「学ぶ場」としての研修会や「つながる場」としての座談会など、プロジェクトが発足した平成26年12月からこれまで3年半の活動実績とその効果及び残された課題をまとめた「活動実績報告書」を作成する。 ・上記作成過程を通じてこれまでの取り組みをプロジェクトの構成メンバーで内省し、課題の整理を行う。

課題の概要

・医療的ケア無し及び医療的ケア有りにしても訪問系サービスも通所系サービスも人材不足や重複障がいへの経験・知識不足により利用できる事業所が少ない。 ・通所系サービスの移動支援が利用できない、送迎が困難。 ・短期入所・医療型短期入所等の事業所がやはり人材不足や重複障がいへの経験・知識不足により少ない。 ・訪問看護STが上記と同じ理由により受入れ先が少ない。 ・グループホーム等入居先が見つからない。 ・地域生活に関する相談窓口である相談支援事業所の活用が少ない。
--

課題解決に向けた方向性

・報告書の作成を通じて課題の整理を行う。 ・上記報告書作成に際し、必要に応じて平成27年度に実施したアンケートの比較材料としての実態調査を再実施し、3年間の活動の量的評価を行う。

プロジェクトの活動期限とそれまでの目標

平成30年度前期中に作成する活動実績報告書を通じて課題整理しなおすとともに、今後の当該プロジェクトの活動の継続の要否、継続する場合の方向性の確認を行う。

構成員

氏名	所属
守村 里美	北海道子ども総合医療・療育センター 地域連携室 地域連携課 相談支援係長
西部 寿人	北海道子ども総合医療・療育センター リハビリテーション課 理学療法士
寺田 有紀	社会福祉法人榆の会 発達相談きらめきの里札幌 相談支援専門員
松木 由理	医療法人稲生会 訪問看護ステーションくまさんの手 看護師
小谷 晴子	DPI北海道ブロック会議 医療担当 (札幌市自立支援協議会副会長)
田中 耕平	ホップ障害者地域生活支援センター
武田 愛美	障がい福祉課運営指導
太田 由美子 高田 洋子 片岡 愛子	北海道重症心身障害児(者)を守る会
御家瀬 真由	医療法人溪仁会 手稲溪仁会病院 患者サポートセンター 看護師長(退院支援看護師)
高波 千代子	医療法人稲生会 生涯医療クリニックさっぽろ 事務長
窪田 健介	相談室みなみ 相談支援専門員
久野 真知子	相談室ぽぽ 相談支援専門員
山田 幸広	相談室あゆみ 相談支援専門員
塚本 晃平(新)	医療法人溪仁会 定山溪病院 地域連携室
小竹 徹	さっぽろ地域づくりネットワーク ワン・オール (自立支援協議会 事務局)

※ 前回報告時(平成29年10月13日全体会)以降に変更があった構成員は氏名の後ろに(新)と記載。

運営会議(旧 まちの課題整理プロジェクトチーム)における
課題整理状況
(第30回 全体会 資料)
2018/5/22

分冊④

【重複障がいに関するプロジェクトチーム】

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
7	重複障がい(肢体不自由・知的障がい)をもつ方の通所先や入居先がなかなか見つからない。(東区7)	●障がい者施設・事業所のバリアフリー化を推進する。 ●現行の障害程度区分認定のしくみを見直す。 ●障がい程度区分認定調査員のスキルアップを図る。
27	養護学校高等部。身障手帳1級、療育手帳A判定、夜間は呼吸が浅くなるので見守り必要。両親と兄と暮らす。父親は多忙。母親が入院中。兄が時間を作って本人の面倒を見たり、父親も仕事を抜けて面倒を見たりしているが、平日1週間など同じ事業所でロングショートさせてもらえる受け入れ先が自宅や学校近くで無い。(身体障がいがある児童を受け入れてもらえるショート先も少ない)医療型ショートは医療型の対象ではないと報酬単価が低いために現実的にはなかなか受け入れてもらえない。(相談9)	・重心判定や療養介護が付いていないが、状態像はそれに近い人のショートステイ受け入れ先が少ない。
28	身体・知的重複障がいがある方がケアホームを探している。南北線を利用して就労継続B型の事業所に通所している。足腰の安定が悪く、歩行時に転びやすいことから、駅までの道のりが安全なところを希望しているが、既存のケアホームには空きがないか、条件が悪くて安全を確保できない。(相談10)	ケアホームが不足していることと、利便性の良い場所がない。
44	夜中の介護が頻繁に必要で、今まで寄宿舎を週3回利用して親の静養を確保してきた。親としては、在宅で介護をしたいと考えているものの睡眠が確保できる手立てが見通せないでいる。在宅サービスで、夜中のケアを利用できる家の構造ではなく、改修も困難。親と本人が、在宅生活を維持できる重心の事業所が不足している。(相談13)	重心の方が定期的に利用できる短期入所が少ない。

運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての 見解	結果	
誰が 何を いつ どのように	運営会議(旧まちの課題整理 プロジェクトチーム)の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。	カテゴリ
【課題整理済】 第6回まちの課題整理プロジェクトチームにて、重度の方を受け入れてい る事業所の調査や生活介護事業所等への聞き取り調査の必要性、重心を 守る会による広報活動等を協議会を通じて広める等の話題が出た結果、 第7回にて、札幌地区重症心身障害児(者)を守る会の太田副会長に話を 聞く。まちの課題整理プロジェクトチームとしての見解は別添のとおり。 ⇒重複障がいに関する課題の整理に係る有期プロジェクトを立ち上げ て、現在上がっている課題から優先的に整理していく ⇒重複障がいに関するプロジェクトチームを設置	(ひがしぐとのいけんこうかんけつか) 【東区との意見交換結果】 ・重心の方も(地域生活 を?)求めている。社会人と してどう成長していくのか? ということを考えている。 ・障がいの重い人の大人モデル にシンポジストとなっても らい、話をしてもらうことも 有効ではないか。地域にたく さんおり、資源として活用し て、協議会としても伝えてい く。 【参考】 ・平成30年度報酬改訂によ り、福祉型強化短期入所サー ビス費等を創設。	主：身体 と知的の 重複障害
【課題整理済】7の見解と同じ		主：身体 と知的の 重複障害
【課題整理済】7の見解と同じ		主：身体 と知的の 重複障害
【課題整理済】7の見解と同じ		主：身体 と知的の 重複障害

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
52	0歳。人工呼吸器も24時間装着。退院後自宅で両親との生活を送る予定だが、知的発達レベルで重心の判定がつかないため、医療型の短期入所、デイサービスが利用できない状況。 状態像としては人工呼吸器もつけているため、福祉型の利用は現実的には無理であり、結局母親が訪看やヘルパーと支えなければならない状況。3歳未満でもあり、ヘルパーの時間数決定についても十分に母親を手助けできるだけの時間数がつきづらい(最終的には区役所、本庁で協議してもらってかなりの時間数を決定してもらったが苦肉の策)。 この他数件の事例が散見される。(相談21)	医療型短期入所や医療型デイサービスの利用が必要な状態像だが、重心判定がつかないために利用できない。
73	医療行為が必要な方の日中活動や短期入所等の利用出来る施設が少ない。 ※家族の側からも本人に病識がないと在宅酸素の取り扱いや胃ろうをいじってしまったり目が離せない。 【現状の対処】 - 母子世帯等は母の入院に合わせて本人も同じ病院に入院 - 在宅で家族やヘルパーの介助で生活しており外に出かけたりすることは諦めている - 病識の無い方で睡眠中に取れたままにしてしまう方は母が夜は起きて付き添っている。 【意見】 - 看護師が配置されている事業所や対応できる事業所の情報共有が必要。 - 事業所が医療ケアを受ける心理的な抵抗感をなくすための研修が必要。 - 施設側の無理と思う気持ち(食わず嫌い?) - 気軽に相談できる仕組みづくりが必要 - 看護的な知識がないなかで入ってきている - 研修の充実→学びの場が必要 - 訪問看護の制度の壁→自宅だけではなく、日中活動先(短期入所)での訪問看護を認めることはできないのか(清田区)	【課題】医療ケアを必要とする方を受け入れてくれる事業所が少ない。 【取組提案】 - 日中活動先での訪問看護の利用不可等の制度の壁を検討する - 札幌市として医療行為についての研修会の実施(情報提供から実践報告まで幅広く)

運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての 見解	結果	
誰が 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理 プロジェクトチーム）の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。	カテゴリ
【課題整理済】7の見解と同じ		主：身体 と知的の 重複障害
【課題整理済】7の見解と同じ		主：身体 と知的の 重複障害

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
60	①相談支援を利用する意義は理解できるが、実際には今すぐ利用するには距離がある ②一つは、日常障がい者が重い故に家族（実際には母親）以外に本人を理解できる人がいないと感じている ③もうひとつは、実際に相談支援を利用した場合も相談員に理解してもらっていると感ずられることが少ない ④結果、相談支援を利用しなくなっていく ⑤相談支援事業所相談員に感じる理解不足等は、ヘルパー、日中活動などの支援の他、訪問看護や保健師の中にも存在し、それらの結果、重症心身障がい児・者が利用できる資源は非常に限られているのが実情である ⑥その他のことを含め、結果として母親がほとんど全てを担っており、様々なことを母親一人で決めなくてはならない状況にある ⑦母親は一生懸命我が子のケア等していくが、加齢等でそれが難しくなると本人の思いはパサッと切れるしかなくなる ⑧これらは本人が医療、医療的ケアが必要であるほど際立っていく ⑨特に年齢が小さい場合、地域に「安心できる材料」が少なく、NICU等から在宅に戻る家族の不安は極めて大きい が、そこに届く支援は極めて少ない（相談28）	在宅重症心身障がい児・者の支援体制の構築

うんえいかいぎ きゅう かだいせいりぶろじえくとちーむ 運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての 見解	けっか 結果	
だれ けんかい 誰が 何を いつ どのように	うんえいかいぎ きゅう かだいせいり けんかい 運営会議（旧まちの課題整理 プロジェクトチーム）の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。	カテゴリ
かだいせいりすみ けんかい おな 【課題整理済】 7 の見解と同じ		しゅ しえん 主：支援 ぎほう しよ 技法・障 うがいとくせい 害特性 ふく しんたい 副：身体 ちてき と知的の ちようふくしようがい 重複障害

身体障がい者・知的障がい者

地域生活移行推進プロジェクトチーム



報告書記載者：村井 友生

運営会議の担当委員：渡邊委員

平成30年度の重点項目

- ・ 地域生活支援拠点事業の各機能の確認
- ・ 札幌市における障がいがある方の地域生活と地域移行の現状を把握する
- ・ 上記2点を把握した上で拠点事業に必要な機能を整理する

活動概要

29年度 活動実績	・ 運営会議担当委員を中心に30年度のプロジェクト始動に向けて、メンバー構成の検討、打診を行うとともに、プロジェクト開催方法、方向性の確認、回数等の検討を行う。
30年度 活動予定	・ 5月にプロジェクトを開始。以降、2か月に1度の開催を想定。 開催前には、運営会議担当委員で議題の整理を行う。

課題の概要

「精神障がいがある方々の地域移行がなぜ進まないのか」を考えるプロジェクトが2年前に立ち上がるが、同様の課題は身体、知的の障がいがある方々にも言えるのではないかと、身体、知的の障がいがある方々の地域移行の実態に基づき、「なぜ」の部分を探る必要性があるのでは、「なぜ」が明確になることで地域移行が円滑に進む部分もあるのでは、との議論の中でプロジェクトチームにて「なぜ」を掘り下げることとなる。同時に、札幌市で地域生活支援拠点事業を33年度より運用するにあたり、地域生活を支える仕組みとしてどのような資源等が必要なのか提言する。

課題解決に向けた方向性

- ・地域生活支援拠点事業の中身を理解した上で、地域生活を円滑に送れるよう環境整備、社会資源の整理等を行う。
- ・障がいがある方々が、地域移行を円滑に行うために必要な資源を整理する。

プロジェクトの活動期限とそれまでの目標

活動期限は、平成32年度末とする。

- ・地域生活支援拠点事業を運用するにあたり、地域生活を支える仕組みとしてどのような資源等が必要なのか提言する他、運用までの流れの中で、プロジェクトチームがどう関わったかをまとめた報告書の作成を行う。
- ・障がいがある方々の地域移行が「なぜ」進まないのか、必要な社会資源等は何かをまとめる。

こうせいいん
構成員

しめい 氏名	しよぞく 所属
ひらまつものり 平松朋紀	さっぽろし しんたいしやう がい しゃ ふくし じぎやう れんけいきやう ぎかい 札幌市 身体障がい者福祉事業連携協議会 (グリーンハイム 施設長)
まなべよういち 真鍋陽一	さっぽろしちてきしやう ふくしきやうかい さつきたそう しせつちやう 札幌市知的障がい福祉協会 (札幌北荘 施設長)
やまざき ち え み 山崎千恵美	さっぽろしちてきしやう ふくしきやうかい 札幌市知的障がい福祉協会 (NIKORI いどむ統括施設長)
こんのじゅんこ 紺野順子	きたくちいきぶかい ふくぶかいちやう 北区地域部会 副部会長
すずきけんいち 鈴木健一	さっぽろ かいだいひやう 札幌みんなの会代表
たなかようこ 田中陽子	さっぽろ かいだいひやう 札幌みんなの会代表
まきのじゅんこ 牧野准子	しやう とうじしやこうし かい だいひやう 障がい当事者講師の会すぷりんぐ 代表
ながえむつこ 長江睦子	さっぽろして いくせいかい 札幌市手をつなぐ育成会
おざわただまさ 小澤忠優	さっぽろしじりつしえんきやうぎかいそうだんしえんぶかい 札幌市自立支援協議会相談支援部会 (相談室すきっぷ)
まつさかゆたか 松坂 優	わーかーびー りじちやう わーかーびー 理事長
	みなみくこべつしえんしゆさ 南区個別支援主査
	しろいしくこべつしえんしゆさ 白石区個別支援主査
かしわばらよしえ 柏原喜恵	しゃかいふくしほうじん さと 社会福祉法人はるにれの里 (生活介護事業所ぼぬーる 所長)
にわともこ 丹羽智子	ほっかいどうさっぽろようごがっこう しんろ ちいきかつどうぶ きやうゆ 北海道札幌養護学校 進路・地域活動部 教諭
わたなべみつぐ 渡邊 貢	しろいしくちいきぶかいぶかいちやう 白石区地域部会部会長 (自立生活センターさっぽろ 事務局)
むらいともお 村井友生	しゃかいふくしほうじんせいじやうがくえん ちいきしえんかかちやう 社会福祉法人聖静学園 地域支援課課長

※ ぜんかいほうこくじ へいせい ねん がつ にちぜんたいかい いこう へんこう こうせいいん しめい うし しん きさい
※ 前 回 報 告 時 (平 成 29 年 10 月 13 日 全 体 会) 以 降 に 変 更 が あ っ た 構 成 員 は 氏 名 の 後 り に (新) と 記 載。

せいしんしょう しゃちいきいこうすいしん 精神障がい者地域移行推進

プロジェクトチーム



ほうこくしよきさいしゃ あずまやいいん
報告書記載者：東谷委員

かつどうがいよう 活動概要

ねんど 29年度	● 6月、8月、10月、12月、2月、3月にプロジェクトチーム会議を開催
かつどうじっせき 活動実績	- プロジェクトの目的と成果指標の検討 - 地域移行の事例の共有（5件、地域移行支援活用事例含む） - 精神科病院入院患者調査（札幌市）の報告 - チーム内各機関の地域移行の現状に関して意見交換 - 実践報告会の企画準備
	● 事務局会議にて事前に論点を整理
	● 実践報告会の実施（平成30年2月23日）

かだい がいよう 課題の概要

● 国の「第4期障害福祉計画」の長期入院者の削減率や札幌市の「障がい者プラン」
の地域移行支援利用者数の数値目標に対して全市的に取り組むには、各病院それぞ
れの方針等の違いから現状では困難であることがわかり、地域移行推進において取
り組むべき対象者の設定や、そこにおける阻害要因について明確に整理する必要が

ある。

- ・地域移行・定着支援事業の件数が少ない背景として、同事業によらず退院支援を病院と相談支援事業所が連携して進めている現状も見え、同事業の活用のしにくさの要因を明らかにする必要がある。一方で、プロジェクトチーム関係機関が行った地域移行の事例を、札幌市の精神科病院や地域事業所等実践報告し、具体的な支援方法などについて周知し、地域移行の促進を図る必要がある。

- ・単に退院して地域移行が終了でないことを鑑みて、地域生活を支える資源の状況についても実態を明らかにする必要がある。

課題解決に向けた方向性

- ・地域移行推進の対象者像の整理及び札幌市としての課題を抽出（調査の実施）
- ・精神科病院と相談支援事業所の連携による地域移行の事例の蓄積から、地域移行・定着支援事業の活用の限界と改善点及び利用したことによるメリットをまとめ、実践報告会を開催することを本プロジェクトチームの成果とする。それにより、地域移行推進を周知するとともに、報告会参加者からの意見や課題の抽出を行う場を設ける。

プロジェクトの活動期限とそれまでの目標

- 本プロジェクトの会議や実践報告会を通して、地域移行事例のノウハウの共有や発信、課題の抽出を行うことができたため、予定通り平成29年度末をもって、本プロジェクトは終了とする。

プロジェクト活動の総括

平成28年の1月にプロジェクトチームが発足してから約2年間、構成員と事務局を中心に精神障がい者の地域移行推進について意見交換及び情報共有を進めてきた。本プロジェクトによって、一部の機関における精神障がい者の地域移行推進を実践できたものの、全市的に取り組むには、各病院それぞれの文化や方針等の違いから現状では困難であることがわかり、本プロジェクトチームに参加している機関（構成員）だけでは解決が困難なテーマであると結論に至った。しかしながら、全市的な課題抽出や取り組みを検討する一方で、同時並行的に一人でも多くの精神障がい者の地域移行推進を積み重ねていくことが重要であるという構成員の意見から、①札幌市の関係機関に地域移行のノウハウを周知し関心や理解を深めて実践につなげること、②一人でも多くの精神障がい者が地域で暮らしていくことができる様な地域作りを推進することを目的に実践報告会を開催した。

実践報告会には、精神科医療機関や相談支援事業所、住居関係の事業所から約90名の職員に参加していただき、地域移行支援の制度や札幌市の実態報告、本プロジェクトにおける実践報告の他、参加者から多くの意見や現在の実態・課題を集約することができた。

本プロジェクトでは、解決が困難である課題も多くあったが、様々な機関にノウハウを周知できたことや多くの関係者から実態や課題を抽出できたことは、一つの成果であると考えている。

プロジェクト終了後の方向性

平成32年度までに、精神障がい者の地域包括ケアシステムを協議する場を作る必要があることから、その準備を進めるための人員を本プロジェクトの構成員等から選出する。また、本プロジェクトの成果物の一つとして、実践報告会で得られた多くの意見や現在の実態・課題をまとめて、上記の協議の場に提出する。

構成員

氏名	所属
岳 和広	大谷地病院
河崎 康代	さっぽろ香雪病院
堀 聖次	林下病院
東谷 洋平	旭山病院（札幌市自立支援協議会）
藤田 雅人	札幌花園病院
石川 祐子	五稜会病院
有川 直輝	札幌佐藤病院
松本 ほたる	相談室みなみ
越田 伸哉	相談室ほくほく
伊藤 光治	地域生活支援センターさっぽろ
上田 みづき	相談室あさかげ
木村 実里	札幌こころのセンター
永井 順子	ほくせいがくえんだいがくしゃかいふくしがくぶ（札幌市自立支援協議会）

運営会議(旧 まちの課題整理プロジェクトチーム)における
課題整理状況
(第30回 全体会 資料)
2018/5/22

分冊⑤

【精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム】

【身体障がい者・知的障がい者
地域生活移行推進プロジェクトチーム】

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
35	〇一人暮らしの不安 これから一人暮らしを始めようとする人たちが持つ不安に 対してどのように支援をしてゆくのか。長い間、入所施設や 親元で暮らしていた障がい者が、これまで経験したことのな い一人暮らしを始めようとする際、少なからず不安を覚える であろうことは想像に難くない。特にその日常生活にさまざ まな支援を必要とする障がい者の場合はなおさらである。 1か月程度の「宿泊体験プログラム」への助成制度や、家具 設備があり保証人不要の短期賃貸マンションを活用したア パート生活の体験入所支援等を実施しているところもある。 「地域生活の体験」に向けての支援が、障がい者のみなら ず、その家族の不安を軽減することに役立つと思われる。(東 区18)	一人暮らしを始める人たちの不安を解消する仕組 みについて検討する。

運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての 見解	結果	
誰が 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理 プロジェクトチーム）の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。	カテゴリ
【課題整理済】 住まいに関するプロジェクトチームで検討。及び、運営会議で検討中 の身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームが できたらそちらでも検討をすることにする。 ※住まいに関するプロジェクトチーム（平成29年6月22日） 運営会議から上がってきたこの課題について共有。今後プロジェクト で検討していく課題として共有する。		主：住 ま い

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
91	医療保護入院者退院支援委員会への相談支援事業者の出席を円滑にするための措置について 平成26年4月1日の精神保健福祉法改正で、精神科病院では、医療保護入院者・家族から希望があった場合等、退院後に利用する障がい福祉サービス等について退院前から相談に応じ、必要な情報提供等を行う相談支援事業所等の紹介に努めることが義務付けられた。 また、相談支援事業所等は、相談援助を行っている、あるいは行おうとする医療保護入院者に係る退院支援委員会への出席の要請があった場合には、できる限り出席して退院に向けた情報共有に努めることとされている。 しかし、現実には香雪病院、あしりべつ病院の独自調査で医療保護入院者退院支援委員会への地域援助事業者の出席率は2%しかない。 個人情報等の問題もあり個別ケースは出さないが、環境整備が課題と考える。 【こころのチームの意見】 ・制度の形がいがいが危惧される状況である。 ・他の自治体では、相談支援事業所等の地域援助事業者が参加しやすい環境を作るために、地域援助事業者に対して交通費を支出する補助金が制度化されている実例がある。 ・さがみはらにゆうしよせつでの事件を受けて、措置入院での退院支援委員会も議論されている。 ・札幌市に予算措置を要望したい。 【事務局会議の意見】 ・相談支援事業所が不足して相談員が多忙な状態にあることが本質的な課題ではないか。 ・地域援助事業者は介護分野も含まれ、相談支援事業所だけの課題ではない。 ・北海道と札幌市、障がいと高齢にまたがる課題で、行政としては対応部署がどこなのか課題。 ・協議会では、要望という形より課題という形の検討が望ましい。 ・予算措置のためには、次期障がい者プランの検討に間に合うタイミングが望ましい。【清田区】	【課題】医療保護入院者退院支援会への相談支援事業者の出席を円滑にするための措置について 【取組提案】 相談支援事業所等の地域援助事業者が参加しやすい環境を作るために、地域援助事業者に対して交通費を支出する補助金の創設について、別添の提案を協議会に提出する。 ※別紙有

運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての 見解	結果	
誰が 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解 を受けた結果、〇〇部会によ る結果や協議会での議論の結 果などを記載し、全体で共有 する。	カテゴリ
【課題整理済】 退院支援委員会以外でも、ケース会議には無報酬で参加している。むし ろ、医療部局からの施策提案の方が良いのではないかと。 精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームで、地域移行定着の 取組が課題にあがっている。精神障がい者地域生活移行推進プロジェク トチームで共有し検討。 ※審議会で、精神に特化した地域包括ケアについて提案あった。障が い者プランの見直しに反映と、他障がいと差が生まれないように。		主：医療

No.	事例、問題提起、困りごと	課題
例	誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例	〇〇という課題がある 〇〇が必要
69	札幌市内、近郊で受け入れてもらえる入所施設が見つからない。(相談) ※個別ケースのため詳細は記載しません。	入所できる施設が見つけれない 入所施設を効果的に活用するための利用者の循環システムが必要では？地域に出られる人は出し、地域では難しい人を一定期間施設で見ていくという流れが作れたら助かるが・・・。
75	平成24年から、「地域相談支援給付」が始まり、これまで精神障害領域では主治医からの推薦などで地域移行対象者を決定していた仕組みから、本人が行政の窓口で「地域移行支援」の申請を行い支給決定がされれば、地域移行の対象となることになった。 ただ、地域移行支援の利用者は増えることなく、長期に入院している精神障害者のうち約半数が65歳を越えて、死亡退院も少なくない。 精神科病床から地域へ生活の場を移したいと希望する方の思いの実現や、退院を自己決定できるための支援があれば地域移行したいと希望する方への専門領域を越えたアプローチが必要。 精神障害以外の領域でも、地域移行に向けた取り組みが必要。(相談)	地域移行支援 厚生労働省が示している資料を参考に、「地域移行部会」などを設置し、地域移行推進のために専門領域を越えた協議、検討を行っていく。

運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）としての 見解	結果	
誰が 何を いつ どのように	運営会議（旧まちの課題整理プロジェクトチーム）の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。	カテゴリ
【課題整理中】 触法ケースは、障害だけの問題でない。司法は、障害福祉に依頼してくる。入所施設だと、受入は定員がいっぱい。触法ケースについては、発達障がい者支援手法開発会議にお願いしてもよいのではないかと。 入所施設からグループホームに移行しても、高齢になって施設に戻ることがあるので、介護保険に繋がることも必要。地域での受け皿が無いから、入所施設が必要になる。入所施設からの地域移行について、今後の取組をどのようにするか。次年度はアセスメントから実施したい。 身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム設置。		主：社会 資源
【課題整理済】 精神科病院からの地域移行についてのプロジェクト設置を全体会に提案し、精神障がい者地域生活移行推進プロジェクトチームを設置。 入所施設からの地域移行課題残る ⇒身体障がい者・知的障がい者地域生活移行推進プロジェクトチーム設置		

